



■ 2号機がいよいよ稼働します ■



COCOせせらぎ 屋上に設置した太陽光パネル

猛暑続きですが、残暑お見舞い申し上げます。

さて、昨年12月から着々と準備を進めてきた2号機がいよいよ稼働します。2号機は1号機の検討でも積極的に協力いただいた太陽住建様をお願いしました。

【設置場所】 自立共生型老人シェアホーム COCO せせらぎ様の3階屋上で、場所は1号機の北北西1kmと近いところにあります。

【屋根】 金属屋根（ハゼ式折板）で、雨漏りの原因となる屋根に穴をあける工法ではありません。屋上には普段登ることが難しいため、雨天時に汚れが落ちやすいよう、傾斜角10度の架台を取り付けました。（1号機は傾斜角5度です）

【システム】 中国製250Wパネル66枚で16.5kWで、4.5kWドイツSMAパワコン3台、費用は500万円弱（約30万円/kW）です。

大災害で停電になったときのために自立コンセントを各階に設置しました。また、1階の駐車場には電気自動車の充電コンセントを設置しました。このコンセントは9月26日の「おひさまフェス×星空上映会」で活用する予定です。発電量のモニタリングは1号機と同様ですが、通信回線はCOCOせせらぎ様のケーブルインターネット（イツコム）を借用させていただきました。

【工事期間】 7月28日（火）から8月7日（金）の10日間で、8月8日（土）に東電が売電メータを取り付けました。

【予測売電額】 初年度の予測売電額は60万円あまり（予測発電電力量は17,508kWh/年）を見込んでおります。平成26年度設備認定のため売電単価は税別32円です。東京電力の系統連系検査・売電開始は8月13日ですので、本号が発行される頃には稼働中かと思えます。

発電量はホームページに掲載しますのでご覧ください。点灯式は9月26日のおひさまフェスにて行います。

【お願い】 最後に皆様にお願ひがあります。3号機の計画が白紙です！ 太陽光発電に適した場所を探しています。些細なことでもよいですので情報をいただければ助かります。



COCOせせらぎ

事業検討チーム 木田 千栄美



■川崎市再生可能エネルギー促進条例、市民案（素案）ができました！■

「原発ゼロ市民共同かわさき発電所」政策検討チームでは約1年をかけて、川崎市再生可能エネルギー促進条例の市民案作成に取り組んできました。先行する各地の条例の分析からはじめ、ようやく全文がかたちになってきましたのでご報告します。皆さんからのご意見をいただき、市職員の方や環境条例の研究者とも意見交換を行いながらブラッシュアップしていきたいと思っています。

2000年以降、少なくとも全国20自治体で再生可能エネルギーの導入・利用促進を目的とした条例が制定されています。特に福島第1原発事故後、原発依存からの脱却をめざす世論の高まりや固定価格買い取り制度（FIT）の導入もあり、市民参加型地域エネルギー事業支援の枠組みを規定したり、地産エネルギーによるコミュニティ活性化、地域エネルギー計画の策定と市民参加を謳う条例などが制定されています。

私たちが条例案を創りたいと考えた理由は2つあります。ひとつは、当法人が目指す方向性の指針とし、活動の憲法として位置づけたい、ということです。脱原発に向けた道筋を、自分たちが住む地域から確実に作りだしていきたい、という思いが込められています。

もうひとつは、公害克服の歴史を持ち、豊富な環境関連市民活動が展開されている環境政策先進地域らしい、再生可能エネルギー政策の指針を持ってほしいという願いです。川崎市はすでに環境基本条例と温暖化対策推進条例をもち、様々な環境政策が展開されています。この市民案（素案）をもとに条例制定を目指すプロセスで、市民、市職員、市議会議員との対話を深め、市のエネルギー政策を動かしていきたいと願っています。

ここでは、その一部をご紹介します。

前文では、この条例がどんな考えのもとに作られたかが書かれています。

「2011年に発生した福島第1原発事故は、深刻で取り返しのつかない被害をもたらしました。そのことを考えると、川崎市は原子力に頼らない街とならなければなりません。そのためには、市民・事業者・行政がみんなで省エネ・再エネの利用を進め、市内で再エネを使いやすくする仕組みの中に市民が参加できるようにすることが必要です。」

目的では、この条例が何をを目指しているのかを述べています。

おおまかに整理すると、

- 1) エネルギーの安定供給と供給時の環境負荷の低減
- 2) 地域産の安全で環境負荷が少ないエネルギー利用を追求する過程に市民が参加できるようにし、参加を市民の権利とすること
- 3) 国の原発依存度を下げること

さらに、この条例の最大のポイントは、市民が再生可能エネルギー事業に参画する仕組みをつくることを行政の責務としている点です。

市民案（素案）は当会ホームページで公開していきます。是非ご意見をお寄せ下さい。



政策検討チーム：鳥海 とりうみ 幸恵 ゆきえ



■9/26「おひさまフェス×星空上映会 in かわさき」に出展■

一歩踏み出すきっかけに！市民がつくった電気でお祭り！？

おひさまフェス×星空上映会 in かわさき。9月26日に新たなお祭りが川崎で始まります！

このお祭り。単なる「お祭り」ではなく、ステージに再生可能エネルギーを使っているのが大きな特徴。そして今回は、高津区に新しく完成した2号機で発電された電気を使います。

かわさき発電所ともご縁のある小田原をはじめ、各地の大規模なイベントで行われている再生可能エネルギーを用いた取組。 どうして川崎でこんなイベントが始まったのか！？

本気でこれまでの仕組みを変え、命を大切に作る社会をつかっていくために必要なこと。それは、無関心だった人も含めて、たくさんの人と「対話」をすることだとこれまでの活動の中で痛感したからです。それは平和や教育、その他のことでも同じだと思います。映画『シェーナウの想い』の中でも、音楽などを通して楽しいイベントを開催し、そこで生まれる多種多様な人との「対話」が徐々に社会を変えていきます。今回のイベントは、「原発」や

これからの社会について、これまでは「難しい」「自分には関係ないこと」と感じている人とも一緒に楽しく考え、新たな社会を創るきっかけとしよう！と始まったものなのです。



年明けから動き出し、それぞれのつながりやこのイベントのきっかけとなった新たなつながりに支えられ、イベントが形になってきました。震災を通じて私たちが改めてその大切さに気づいた「協働」がここにあります。いろいろな取組みをしている市民団体が多くある川崎で。一人ではできないことも、一つの団体ではできなかったことも、たくさんのかや思いが集まることで形になってきている今。それは小さくても足元から新たな社会を創り上げていく第一歩になるかもしれない。そんな可能性とワクワクも感じています。

14時から地元太鼓グループ、多摩高校の合唱やバンド演奏、17時半からのセレモニーではこのお祭りのエネルギーはどこから来ているのか楽しく伝えます。18時からの映画は、人気絵本が原作の「おまいうまそうだな」を上映します。

楽しいの先に発見がある。そして新たな社会に向けて一歩踏み出すきっかけになる。

かわさき市民発電所も中心となり、ここ川崎ではじまる今回のイベント。

どんなお祭りになるのか！？ みなさんもぜひお越しください！

イベントチーム 小川 香子 きょうこ



■自己紹介コーナー■ No.12

今月号は、だれよりも情熱をもって環境問題と向き合っている三枝信子さんの自己紹介です。



「川崎生まれ、川崎育ち、川崎以外で生きたことがありません」というのが、私の定番の自己紹介のご挨拶です。

そんな私にとって川崎市は、「公害都市」でした。小学生の頃は夏になれば光化学スモッグで息が苦しく、ぜん息で苦しむ友人の背中を撫でながら、いったいどうしてこんなことが起こるのかと考え込む日々でした。そんなことが遠因となって環境問題に興味を持ち、今は仲間と立ち上げた『川崎フューチャー・ネットワーク (KF-net)』という団体で「市民の力で川崎を“環境都市”に！」をスローガンに、様々な環境課題を学び考える場づくりを行っています。夏休み期間中は「川崎の公害映

画上映会」を行ってきました。重いテーマでもあり、足を運んでいただくのが難しいのですが、見てくださった方からは「川崎で公害があったことは知っていたが、こんな状況とは知らなかった」との声を多くいただき、苦勞する甲斐はあると思って頑張っているところです。

よく「川崎の公害は終わったのに、何故、今になって公害のことを取り上げるのか？」とのご質問をいただきますが、実は川崎の大気汚染公害は過去のことではありません。高度経済成長期の公害とは姿を変えています。残念ながら今現在も、主に川崎北部でぜん息患者は増えつつあります。上映会では、そんなことも学びながら進めています。

川崎に限らず、日本全国で起こった数々の公害を見ていくと、今、起こっている原発の問題と同じ構造であることがわかってきます。弱者や地方に被害を押し付け、命や健康よりも利益を優先する構図です。自分たちの住んでいる川崎で50年前に起こったことに向き合うことは、取りも直さず今の原発の問題に向き合うことに繋がります。未来に希望を生み出すためにも、つらい過去に向き合う強さを持ちたいと思いつつ、活動をしています。よろしければ、いつでも飛び入り参加歓迎ですので『川崎フューチャー』のHPやfacebookを覗いてみてください(ˆoˆ)

副理事長 三枝 信子

【編集後記】

市民はお盆中も休んでいるわけにはいかない！川内原発再稼働反対の抗議行動で九州まで遠征した人も居れば、安保法案の可決に抗議するため国会前やあらゆる集会に参加した人も居れば、歴史の真実をゆがめないために教科書採択の傍聴に行った人も居れば、保養のために訪れた福島の子どもたちを迎え入れた人も居る。戦後70年の節目に「平和」の尊さを思う。 (加藤伸子)

■NPO 法人 原発ゼロ市民共同かわさき発電所■

ホームページ

<http://genpatuzero-hatuden.jimdo.com/>

フェイスブック

<https://www.facebook.com/genpatuzero.hatuden>

連絡先 TEL 090-7948-6189 (川岸)

